

令和6年度 学校評価 総括

浜田市立旭中学校

1 実施について

- 調査方法 Microsoft Forms を活用した評価調査
- 回答期間
 - ・生徒 令和7年1月20日（月）（学校にて一斉に実施）
 - ・保護者 令和7年1月14日（火）～1月26日（日）
 - ・教職員 令和7年1月14日（火）～1月20日（月）
- 分析期間 2月上旬（職員会議等）
- 学校関係者評価 令和7年2月20日（木）
- 職員会議で教職員へ学校関係者評価の説明 令和7年3月3日（月）
- 結果公表 3月7日（金） メール配信システムすぐーるで周知し、Web 公開

2 調査結果・・・・・・・・資料1

- 質問内容（学校経営概要に基づいて作成）
 - 生徒の回答結果
 - 保護者の回答結果
 - 教職員の回答結果
- } 肯定的評価の割合

3 結果分析・考察

- 教育相談について、昨年の反省を生かして、相談したい先生を選べるようにしたことは、生徒にかなり好評だったが、担任教員にとっては懇談時期と近く、生徒と話しておきたかったということがあった。今後は時期を考えること、いじめアンケートと連携していくことを通して、よりよい形を探っていく必要がある。
- 今年度、市教委から協調学習の研究指定を受けて授業改善を進めたことは効果があった。また授業での ICT 活用が進んだ。一方、図書館活用、人権学習についてはさらに進めていく必要がある。
- 生徒の自己有用感については、生徒と教職員で評価に差が見られた。小規模の良さを生かした活動や役割に取り組んでいるが、生徒が自己有用感を高めることができるような評価言や振り返りの場の充実が必要である。
- 事務処理や会計処理について、改善ができた。また市教委と連携し、環境整備が進んだ。（体育館の放送設備、灯油保管庫、職員室の椅子、備品購入など）また、やまなみ学級の作業学習と連携することで、生徒の自己有用感を高め、校内の修繕ができた。しかし、職員の休養室や職員室内の配線など、さらなる職場環境の改善が必要である。
- 週課題の出し方については、生徒の負担を考慮し、見直しが必要である。
- 来年度からコミュニティスクールの導入に伴い、総合的な学習の時間の目的を共有し、よりよい学習活動が展開できるようにしていく必要がある。

4 学校関係者評価

○学校評議員会 令和7年2月20日（木）開催

○ご意見・評価

- 人権教育、人権の意識についてこの地域の大人の雰囲気も、島根あさひ社会復帰促進センターのおかげで少しずつ変わってきていると感じている。中学生もメッセージ交換などとして貢献しているのがうれしい。
- 小学校からの地域の学びがつながり、形になってきている。地域の課題に子どもたちが関わっていることがうれしい。まちづくりのフォーラムでの生徒の発表が素晴らしかった。プレゼン能力などは普段の教育活動の成果であり、大人でもなかなか難しいが、子どもたちはコメントも自分で考えていた。
- 職場体験について、島根あさひ社会復帰促進センターも受け入れ可能と言われた。今後、コミュニティスクールとなり、地域と子どもがよりつながることになるとよい。

5 次年度へ向けて

○地域にかかわる学習については良い形で発展している。今後、教科の学習とより関連付けて、学びに向かう力につなげていくことが必要である。

○生徒にどんな力をつけさせたいか、学校として保護者に説明していくことが必要。各教科等でも、方針を示していく必要がある。

○少数であっても否定的な意見を持ち、自己肯定感や自己有用感が低い生徒がいることを踏まえ、授業をはじめとする教育活動を通して、より魅力的な学校を作っていく必要がある。

○さらなる職場環境改善のために、できることは何でも取り組んでいく必要がある。ただ学校でできることは限られているので、引き続き市教委との連携が必要である。